

四季の室礼

《節分》

室礼（しつらい）は季節や人生の節目に感謝、もてなし、祈願などの心を添えてしつらいます。室礼を知って頂くことで、より豊かに生活を楽しんで頂けると幸いです。

参考 生活文化 室礼三千



豆まきの4点

豆、柊、鯛、あたり棒

豆は魔目に通じ、鬼の目を打つためのもの。柊の小枝に鯛の頭を刺して玄関先に飾ると、柊の棘と鯛の悪臭が鬼を退散させると言われています。あたり棒は鬼退治の武器となるものです。

節分の夜に、福豆を食べるのは、来る新春もまめ（達者）でありますように、とのいわれからです。



翌日は立春、「椿」は木へんに春と書くことから、冬の寒気を払い春になることをあらわす。



季節の野菜や果物、行事にまつわる食べ物を供え、その後食すことを「直会（なおらい）」といいます。

節分では、豆まきの後にいただく「年取り豆」もそのひとつ。大豆の五目煮や鯛を焼いていただくのもいいですね。

もとは年越しの行事

節分は、文字通り、季節を分けることを意味します。立夏、立秋、立冬、の前日も本来節分ですが、立春を一年の始まりと考える風習があり、また旧暦の正月がこの頃にあたることから、立春の前日だけを「節分」と呼ぶようになりました。

節分の行事で代表的なのは、豆まきです。その起源は奈良時代中国から伝わった「追儺」の行事です。宮中では大晦日、疫鬼を桃の弓や杖などで追い払う

追儺が行われました。やがて豆をまいて悪鬼を追い出す行事が寺社で行われ、庶民にも広まりました。

豆は、邪気を祓う呪力があると考えられ、疫病や疱瘡などの病気を豆に託して辻に捨てる風習もありました。（日本のたのしみ帖参考）

追儺Ⅱ 古来中国の宮中で大晦日に行う行事で鬼を払う儀式のことです。

旧暦の正月は立春なので、大晦日は節分のことです。